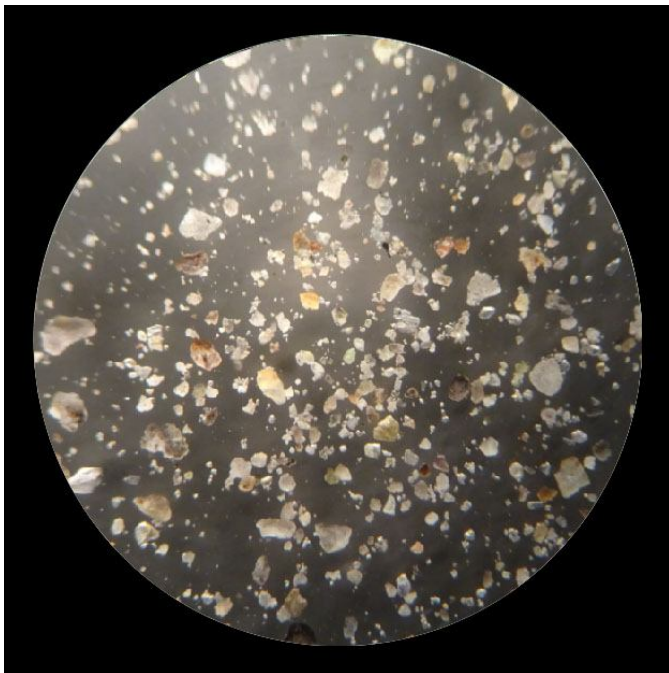
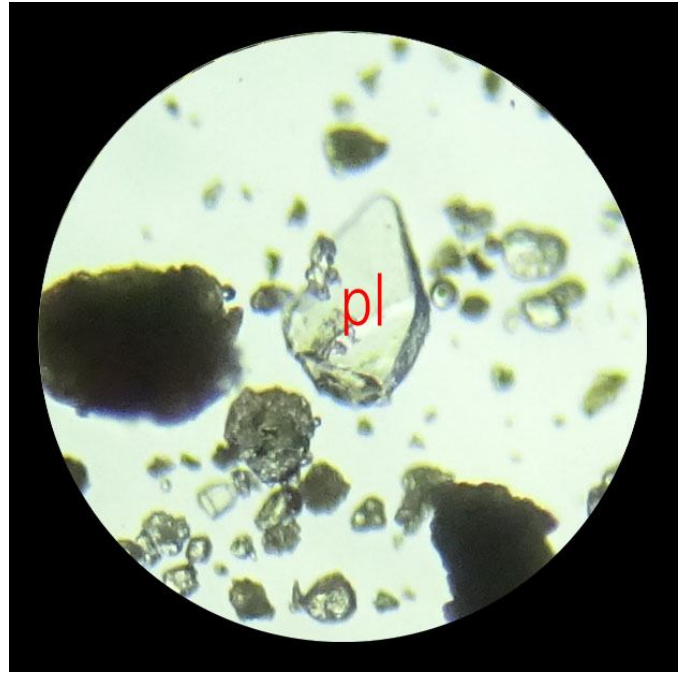


タオルから揉みだした火山灰を何度か洗い、洗面器の底に残った粒が、この状態である。これをスポイトで吸い取って、そのまま顕微鏡観察する。

火山灰は「固体の火山噴出物のうち、粒の直径が2mm以下のもの」という定義しかない。その粒(主として鉱物の結晶)の由来は関係ない。重要なことは、その火山灰が「もともと火口底にあった古い噴出物」なのか、「今回の噴火での新しいマグマ由来の噴出物」なのかという判別である。

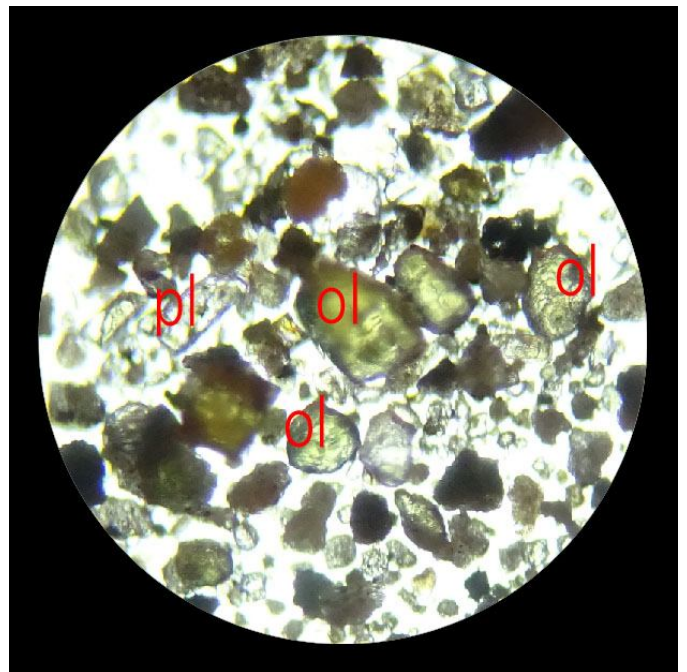


まずは×40の倍率で、反射光で観察してみた。有色鉱物、無色鉱物、無色透明鉱物が入り混じっている。火山灰だということは疑いない。



pl ; *Plagioclase* (斜長石)

浅間山の火山灰で比較的良好に見られるのが、斜長石である。斜長石は火山灰を判定する鉱物結晶としては重要なものだ。細粒の火山灰の場合ほぼ透明で、斜めに切れたような結晶をしているものも多く、判別は容易である。しかし、斜長石の結晶は火口底に累々と堆積しているため、斜長石が見つかったからといって、新しいマグマ由来とは断定できない。



pl ; *Plagioclase* (斜長石)

ol ; *Olivine* (カンラン石)

カンラン石(オリビン)も多数見つかった。カンラン石も造岩鉱物の代表で、火山灰からもよく見つかる。緑色(オリーブ色)をしていて、大粒の美しい結晶のものは、宝石としても扱われる。